

エンドドンティック・マイクロ・サージェリー 〈その過去 10 年と、これからの 10 年〉



清水 藤太
Tota Shimizu

ロサンゼルス開業、UCLA 卒後教育コース・インストラクター、日大松戸歯学部客員教授

1998 年に、“マイクロスコープ下における歯根端切除術”がアメリカのエンド専門医教育の必修項目になって以来、はや 30 年弱が経とうとしている。

筆者は、そのまさに 1998 年に南カリフォルニア大学のエンド大学院に留学し、今に至るまでロサンゼルスで在野の臨床に携わっている関係上、この 30 年間のマイクロ・エンド外科の潮流を当初から身をもって感じる事ができたのは、望外の幸運であった。

それ以前の「骨を大きく開け、盲目下に近い環境で歯根端切除を行い、アマルガムにて逆根充」という術式から、「マイクロスコープでの目視下にて、最小限の骨削除・歯根端切除後、生体親和性の高い材料で逆根充」というパラダイム・シフトに基づく新しい治療プロトコルは、実は 1998 年当時も現在も大きくは変わっていない。

しかし 30 年も経過すると、蓄積された新知見や新材料による細かい変更・改良があって当然で、そして“神は細部に宿る”のであれば、こういう細かい改良点も積み重なると全体の姿が様変わりするのもむべなるかな、であろう。

筆者は、10 年前の 2015 年に本学会にお招き頂いた際に、自分が当時感じていたマイクロ・エンド外科の新しい潮流につきお話させて頂いたが、今回はさらに 10 年を経て、さらなるマイナー・チェンジを経た今日のマイクロ・エンド外科の現状、そして予想される今後の方向性につき、概説させて頂く。

〈トピック〉

(1) 軟組織のマネージメント、(2) 骨削除・歯根端切除、(3) 骨補填材、(4) マイクロ・エンド外科の予後およびそれに基づいたケース・セレクション

【経歴】

1993 年 鹿児島大学歯学部 卒業

1995 年 保母須弥也に師事し局部補綴学を修める。

1998 年 米国ロサンゼルス南カリフォルニア大学 (USC) 大学院 入学

2000 年 同大学院を卒業、アメリカ歯科医師会認定歯内療法専門医取得。

2001 年 カリフォルニア州歯科医師免許取得 ロサンゼルスにてエンド専門医として開業。

2013 年 UCLA 歯学部にて、卒後教育プログラム・インストラクター担当